



# グラフィカル な食品の国 5



## 【グラフィカルな食品の国とは】

グラフィカルな食品の国は、食品たちが暮らしている国です。  
食品たちの楽しみの一つは、国の中心に建っている大聖堂の窓をのぞきこむことです。  
大聖堂には無数の窓があります。  
窓をのぞくと、人間の暮らしが見えます。  
別の窓をのぞくと、また別の人間の暮らしが見えます。  
窓一つ一つが別々の人間の暮らしを映しています。  
食品たちは、人間の生活を見ることが大好きです。

そして、食品たちが人間の暮らしを見に来るのには、もう一つ理由があります。  
この国では、人間の暮らしを見ると、食品たちが若返ります。  
古くなったお米も、新鮮なお米に戻ります。  
古くなったお肉も、新しいお肉に戻ります。  
この国の食品たちは、人間の暮らしを見ないでいると、次第に鮮度が落ち、腐り、朽ちてしまいます。  
この国の食品たちは、人間の暮らしを見ることで、定期的に若返っています。  
そして、何年も新鮮なままで元気に暮らしています。

## 【お米のノガたとは】

いいかげんな性格のお米

## 【空を飛ぶ石とは】

この国の食品たちが移動のために使うもの

## 【天の声とは】

時々、空の上から聞こえる声。国中の食品たちに聞こえる大声。  
天の声に呼ばれると、食品たちは、雲の上に連れて行かれます。

## 【花びら餅】

お米のノガタが、花びら餅に会った。

「こんにちは、今日は地面を歩いているの？」

「...」

「いつもは、空を飛んで来るのに。飛べなくなったの？」

「私を誰かと間違えてない？」と花びら餅が言った。

「むらすずめのジョンでしょ」

「私、ジョンじゃないよ。むらすずめでもないよ。花びら餅だよ」

「花びら餅？ そんなお餅あるの？ 見た目は似てるよ」

花びら餅は、「私って、むらすずめという食べ物に似ているのかな？」と思った。

翌日、花びら餅とむらすずめが一緒にお米のノガタのところへ来た。

「ノガタさん、僕と花びら餅さんが似てるって言ったって？」

むらすずめが言った。

「よく見て、違うでしょう」

「そうだね、ふたり並ぶと違うかも。でも、外側は違うけど、中のほうはどうなの？」

お米のノガタは、むらすずめの皮の中に入ろうとした。

「なにするんだ！」

むらすずめは、怒って空を飛んで帰って行った。

## 【きびだんご】

「むらすずめの中には、あんが入っていたよ」

お米のノガタが、花びら餅に言った。

「そうですね。でも、勝手に皮の中に入ったらだめだよ」

「そうなの？」

「ノガタさん、あなた食欲が強すぎるのでは？ 食べること以外に何かやってみたら？」

「何をすればいいの？」

「.....」

マスカットオブアレキサンドリアが歩いてきた。花びら餅が、マスカットオブアレキサンドリアを呼び止めて、お米のノガタが何をすればいいか聞いた。

「雑学をお勉強してみたら？」

「いいね。雑学おしえて」お米のノガタが興味を示した。

「じゃあ、僕の知り合いの、きびだんごの雑学にしよう」

「桃太郎のきびだんご」

「そうだね、岡山のおみやげ物として知られているきびだんごは、日清戦争のころから全国的に有名になったらしいよ。戦争から帰ってきた兵隊さんにね、『鬼をたおした桃太郎のきびだんごをお土産にいかがですか？』って言って売ったら、兵隊さんにとてもうけたんだって。その兵隊さんたちが自分の地元伝えたから『岡山のおみやげ＝きびだんご』ということになったらしいよ」

「...」

「あれ...ノガたさん、聞ってる？」

「ノガたさん、寝てるね」と花びら餅が言った。

「こりゃだめだ」

「マスカットオブアレキサンドリアさん、私の友達に美味しい抹茶があるので、そこに行ってお茶にしませんか？」

「いいですね、このひとは置いていきましょう」

花びら餅とマスカットオブアレキサンドリアは、お米のノガたを置いて行ってしまった。